

# 研究実施のお知らせ

2020年8月18日 ver.1.0

## 研究課題名

インターロイキン-18の膵がん患者における血清濃度測定と腫瘍組織における発現解析

## 研究の対象となる方

島根大学医学部附属病院 消化器・総合外科を受診し、膵がんの手術を受けられた方のうち、2013年7月から2018年3月の間に島根大学医学部附属病院で実施された「膵がん患者に対する低侵襲的な新規がん治療法を確立するための、膵がん組織における遺伝子変異・タンパク質発現と末梢血リンパ球の反応性に関する基盤的研究」に参加し、試料提供を頂いた方

## 研究の目的・意義

さまざまな種類のがんの中でも、膵がんは特に治療が難しく予後が悪い、難治性がんの一つとして知られています。膵がんを「治せるがん」にしていくためにも、革新的な早期診断法や、より効果の高い治療法の確立が望まれています。

最近の研究から、がんと炎症が密接な関係をもっていることが明らかになってきました。炎症とは身体を守るための防御反応で、たとえば体内に侵入したウイルスや細菌を免疫細胞が排除しようとしている時に起こる大切な生体反応です。しかしこの炎症が、時にがんの増大に関与することがあり、特に膵がんではたくさんの炎症が起きていることが知られています。

炎症には「炎症性サイトカイン」と呼ばれる生理活性物質が関与していますが、その一つに「インターロイキン-18 (IL-18)」があります。そして、このIL-18が膵がん患者の血液中で増えているという報告があります。IL-18は通常「不活性型」で存在しますが、炎症が起こる状態になると「活性化型」に変化します。これまで「不活性型」と「活性化型」を正確に区別する方法がありませんでしたが、最近わたしたちはその区別ができる新しい抗体を開発・作製しました。

膵がん患者の血液中や膵がん組織内の「活性化型 IL-18」を正確に測定し、病態との関係を明らかにするため、今回の研究をおこなうことにしました。これにより、膵がんの早期発見や予後予測、治療方針の決定などに貢献できる可能性があると考えています。

## 研究の方法

すでに試料提供いただいている「血液（血清）」と「手術の際に摘出された残余組織」を使用して、「活性型 IL-18」の測定や発現解析をおこないます。また診療記録から治療内容（手術内容や抗がん剤治療など）や術後の経過などを収集して、「活性型 IL-18」との関連性を精査します。

試料提供いただいた患者さんはすでにコード番号によって識別されており、わたしたちは氏名などの個人情報とは切り離れた状態で試料やデータを取り扱います。またコード番号と氏名・ID との対応表は島根大学医部附属病院 消化器・総合外科（担当：田島 義証）により厳重に管理されており、施設外に持ち出されることはありません。

研究に関するデータおよび関連資料は研究の終了を報告してから少なくとも5年間保管し、その後匿名化した状態で廃棄（消去）します。

## 研究の期間

2020年9月（研究許可後）～2023年3月

## 研究組織

この研究は島根大学医学部生化学講座（病態生化学）が行います。

研究責任者（研究で利用する試料・情報の管理責任者）：

島根大学医学部生化学講座（病態生化学） 浦野 健

## 試料・情報の利用停止

ご自身の試料・情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2021年6月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

## 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の試料・情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究事務局：

島根大学医学部生化学講座（病態生化学） 成相 裕子

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2127 FAX 0853-20-2125